

口蹄疫発生による対策について問う

防疫態勢を徹底、消毒に万全を期す



宮本 昭一 議員

宮崎県で発生した口蹄疫の被害規模は想定をはるかに超え、そのダメージは畜産関係者だけでなく他の産業分野まで及んでいる。未だに終息の兆しが見えない口蹄疫発生に対する畜産農家の現状をどのように捉え、指導しているか。

指導に苦慮している

町長

4月の発生以来訪問指導も自粛している。文書などによる指導管理のため思うようにいかず苦慮している。

防疫態勢強化のマニュアルは

宮本議員

県は独自マニュアルの作成を明らかにしている。本町も対策本部を獣医師会等と連携を密にして早急に立ち上げ、早期封じ込めに効果的な対応などを盛り込み、町独自のマニュアルを作り、防疫態勢の強化に取り組む必要があると思うがどうか。

近隣市町と連携して

町長

6月10日に口蹄疫対策本部を立ち上げた。町の対応は殺処分後の埋却処理や、周辺地域での消毒作業が主なものになる。マニュアルについては近隣市町と連

本町独自の支援策は

宮本議員

4月からの子牛セリ市等の停止により、畜産農家は唯一の収入源が閉ざされ、配合飼料代の支払等、今後の成り行きに対する不安感等でまさに悲鳴を上げている。今の状況では購買者も少ないのではという懸念と、買ったたきも予想される。畜産で頑張りたいという方や、担い手の若い層の夢を消さないよう本町独自の導入・保留等に対する積極的な支援等、優秀な生産素牛を町外へ出さないための更なる補助対策を打つ考えはないか。

今は消毒に万全を期す

町長

貴重な意見として受け止めさせていただき、今は口蹄疫ウイルスが本町に侵入しないように、職員や委託した業者と消毒に万全を期したい。



防疫消毒作業

介護サービスの現状は

宮本議員

超高齢化社会の到来で、今後の介護サービスの増大や、医療費の更なる伸びとその抑制も大きな課題となっている。その現状と利用状況はどうか。

順調に推移している

町長

本町の事業運営については概ね順調に推移

独り暮らしの支援策は

宮本議員

認定を受けられない独り暮らしの高齢者で買物もままならない方等、毎年1%近い割合で高齢化率が上昇している中で、このような方々に対する福祉サービス等の一層の支援策が必要ではないのか。

見守り活動は機能しているか

宮本議員

的視点を重視し、認定審査で非該当になった要支援・要介護になる恐れの高齢者を対象として、地域支援事業、通所による介護予防事業、保健師による家庭訪問指導や配食サービス等を実施している。

宮本議員

野方地区を中心として実施されている見守り活動の、近隣福祉ネットワーク事業はうまく機能しているか。他地区にも十分活用していく必要があると思うがどうか。

現在は町内で組織活動している

町長

社会福祉協議会が主体となり独り暮らしや重度の障害を持つ見守りなど、成果が上がっており現時点では町内で組織をつくり活動している。

多方面から支援

町長

心身機能の低下による高齢者が、要介護状態にならないよう予防